

○秋から冬にかけての天気（3ヶ月予報：10月25日気象庁発表）

10月26日には、フェーン現象が起こり、宮崎市で約30℃と真夏日に近い気温を記録しています。7月以降これまで暑さが続いてきましたが、平均気温も記録的な高温で推移しています。

そのような中、10月25日に気象庁から今後3ヶ月の長期予報が発表されましたので、今回はその内容について解説します。

1. 予報の見方

3ヶ月予報は、月ごとの気温と降水量について予想されます。

現在、1981年～2010年の30年間のデータで平年値が出されており、3ヶ月予報は平年値と比較した出現率で次の表のように表現されます。

表 現	低い(少ない)	並	高い(多い)
出現率	30(%)	40(%)	30(%)
意 味	平年値と比較して、どの出現率が高いかを表現する		

たとえば、平年並みが予想される場合は上記の表現になります。

左の30は平年よりも低い(少ない)傾向、右の30は平年よりも高い(多い)傾向と表現されます。40は平年並みの気温ということになります。

2. 3ヶ月予報（九州南部地方）

(1) 気温

	低い	並	高い
3ヶ月平均	40	40	20
11月	30	40	30
12月	40	40	20
1月	40	40	20

(2) 降水量

	少ない	並	多い
3ヶ月平均	40	30	30
11月	40	40	20
12月	30	40	30
1月	40	30	30

3. 3ヶ月予報の解説

(1) 気温は3ヶ月平均で平年並みかやや低い予想です。11月は、これまでの高温傾向が解消し、平年並みとなり、12月、1月は、寒気の影響を受けやすく、平年並みかやや低い気温(寒い冬)になる予想です。

(2) 降水量は3ヶ月平均で平年並みかやや少ない予想です。11月、1月はやや少なく、12月は平年並みとなる予想です。

4．地上気温の変化

10月末で、最低気温は15～20、最高気温は23～29 でした。平年値は、最低12.4、最高22.0 ですから、かなりの高温傾向となっていました。

この気温が11月初めには、最低気温12～13、最高気温20～22 まで下がってきますので、3～7 近く気温が下がることになり、体感的には寒さを感じる程度になります。降霜も予想されており、一気に季節が進むことになります。

5．今後の見通し

(1) 今年、エルニーニョ現象が春先まで発生していたため、7月頃まで気温も平年並みかやや高い傾向で来ていましたが、その後、ラニーニャ現象が発生したため、暑い夏になり、しかも最低気温が高い傾向でした。

そのため、太平洋高気圧の勢力が8月以降、西日本で勢力を強め、西日本で気温が高く、東日本で寒気が入りやすい傾向となっていました。この傾向は10月まで続きましたが、11月には解消し、今後は北からの寒気を受けやすい傾向に変わってきます。

(2) 11月に入ると、寒気の南下を妨げていた太平洋高気圧の勢力が衰えるため、寒気が南下しやすくなります。特に、この冬は西回り（西日本中心）の寒気の南下が予想され、12月からは厳しい寒さとなることが予想されています。

(3) その要因は、北極振動によるものです。この現象は、北極地方の気圧が高くなり、その周辺部（中緯度地方）で低くなるため、北極に蓄積された寒気が気圧の低い地域に流れ出し、寒波として日本に襲来する現象として現れます。

北極の寒気は、蓄積期、放出期を繰り返すため、周期的に寒波が襲来することになります。

(4) 11月初めから、気温が急激に下がってきますが、昨年のような突然昇温もあり得ますので、農作物を管理する上で、温度変化の予想には細心の注意を払ってください。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二（気象予報士）